

大月町

特定非営利活動法人 黒潮実感センター



森は海の恋人 “柏島発”海の中の森づくり

■キーワード：里海づくり、間伐材利用、環境教育

■活動時期： 通年

■活動場所： 主に柏島周辺の海域

■主な活動メンバー

ダイバー、地元漁師、地元小学生、森林組合、黒潮実感センター

■ホームページ

<http://www.orquesta.org/kuroshio/>

(取り組み内容)

■海の中の森づくり

藻に卵を産むモイカ（アオリイカ）の人工産卵床として、藻場の代わりに間伐材の枝葉を海中に設置。海中に「里山」のような風景を作り出し、産卵場所を提供する枝葉が、小魚にとっても海ゆりかごのような存在となる。本取り組みはH12年から毎年行っており、環境教育の題材としても活用している。同じノウハウで一昨年度は鶴来島、今年度は沖の島で実施し、産卵が確認され成功。ノウハウを確立させ、柏島から、沖の島、足摺、宇和、土佐湾全域と広げていきたい。

【取り組みの手順】

- ①現地説明会
- ②関係づくり
- ③モイカの産卵適地調査
- ④間伐作業（地元小学校と共同作業）
- ⑤設置
- ⑥モニタリング、撮影
- ⑦報告会、プレゼン



■サンゴの修復

台風で破損したサンゴを集めては、岩に貼り付ける作業を行う。黒潮生物研究所、地元ダイバーの協力を得て約20名で作業。その後、修復作業のボランティアを募り2年間行い、無事にサンゴが活着。

【取り組みの手順】

- ①破損したサンゴを集める
- ②張り付ける岩に付着している海藻・カキなどをワイヤーブラシで取り除く
- ③特殊な水中ボンドでくっつける
- ④1～3ヶ月で自ら活着（張り付く）するのを手助け。

■藻場の再生

近年、磯焼け（大型海藻群落の減少）がひどい。今年度から実験的に藻を移植し、ウニを除去し捕食圧を下げる藻場の再生事情に取り組んでいる。

【取り組みの手順】

- ①磯焼けの原因と考えられる下記をひとつずつつぶしていく。
 1. 山からの栄養塩の減少
 2. 海水温度の上昇
 3. 藻食性魚類、動物の増加（ブダイ、アイゴ、ウニなど）
- ②藻を移植して、受精卵が落ちるのを待つ。
- ③養殖用の古くなった網を海底から1mほど浮くように設置。
そこに宿毛湾からもってきた藻（ホンダワラ類）をくくりつける。
- ④ウニを除去し捕食圧を下げる。10m×20mの網のスペースにある2～3000個のウニをダイバーが手作業で除去。



■成果

イカは卵が大きいので「産卵した」という成果が目に見えやすい。しかし、イカ自体が増えたかどうかはデータが取れておらずよくわからないが、エギンガー（餌木：イカ釣り用のルアーを使ってイカを釣る釣り人）は確実に増えていることから、イカは増えている可能性はある。

（温暖化防止への貢献）

藻場やサンゴを再生させることにより、海中にCO₂を固定することができる。また、間伐材を使うことにより人工林の間伐促進につながり、結果としてCO₂固定能力の高い木を育てることができる。



（産卵されたイカの卵のう）

■今後の展望と所長の一言

- ①海の中の森づくり第一章は、海の中に藻場の代わりとしてイカの人工的な産卵床を設置し、里山のような環境を作り、イカを増やす西洋医学的な処方箋。
 - ②第二章は藻場再生。磯焼け等の原因究明と解決を行い、もとあった自然に戻すことで自然治癒力を高める東洋医学的な処方箋。
- 取り組みを進めることで成果は見てくる。23年前に来て魅了されたこの海を残したい！



（平成21年9月現在）